



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン:米議会における対イラン制裁法案に対する反応 (3-4日付現地報道取り纏め)

7月3-4日付のイラン現地紙報道は、米議会における対イラン制裁法案に対する同国要人の発言について報じている。

1. アフマディーネジャード大統領の発言 (4日付「ケイハーン・インターナショナル」紙)
 - (1) 米議会における対イラン制裁法案は、イラン経済に打撃を与えず、イランが世界においてより大きな役割を果たすことを妨げないであろう。
 - (2) 彼らは、イランには目覚めようとしている眠れる獅子が存在しており、これが目覚めれば世界におけるあらゆる関係が変化するということを知っている。
 - (3) イランは、4年前は60億ドルの工業製品を輸出していたが、今日、この輸出額が180億ドルに増加している。イランの工業部門は、制裁及びイランが直面している諸問題にも拘わらず、大きく成長している。
2. ラフサンジャーニー公益評議会議長の発言 (4日付「テヘラン・タイムズ」紙)

米大統領が、欧州の支援を以てイランの核プログラムの核心を攻撃していることを正式に発表した事実は、イランに対する虐待的措置である。覇権主義国は、地域諸国に対して、イランと敵対するよう圧力を行使しているが、成功しないであろう。
3. その他のイラン国内の反応
 - (1) モッタキー外相発国連安保理メンバー国宛書簡 (3日付「ケイハーン・インターナショナル」紙)

モッタキー外相は、15の安保理メンバー国宛書簡の中で、「テヘラン宣言が相互の信頼のために積極的かつ建設的な環境を創出してきたにも拘わらず、安保理による不都合な行動（が取られたこと）は、一方の関係者が（イランとの）対話への関心を有していないことを示している。一連の制裁は、イランに自らの平和的な原子力技術を継続することをより強く決意させることになるだろう」と述べた。
 - (2) モッタキー外相発 EU 諸国外相宛書簡 (3日付「スィヤーサテ・ルーズ」紙他)

モッタキー外相は、イランに対してより厳しい制裁を科すとのEUの決定に警告するためのEU諸国外相宛書簡の中で、「制裁のような敵意ある措置は、間違いなくイランとEUの関係にとって不快な結果をもたらさうだろう。このような措置は、イランよりもEUにとって大きな損害をもたらすことが明らかであり、過去の統計がこれを示している。EUが、米国による圧力に屈服し世界における独立した諸国としての面目を失うような誤った道を進まないよう期待する」と述べた。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799